

令和7年度

自己評価
結果報告書

学校法人 松栄学園

若木台幼稚園

経営理念・教育理念・教育方針・教育目標

《学校法人 松栄学園》

【経営理念】

- *園児と保護者・教職員に喜びを与え、笑顔あふれる地域社会をめざす。

【教育理念】

- *遊びを中心とした楽しい集団生活の中で、豊かな体験を通して、21世紀を生き抜く力を育て、豊かな心・健やかな体・優れた知性を備えた、バランスのとれた人間の育成に努める。

【教育方針】

- *ゆたかな心・すこやかな体・すぐれた知性の、バランスのとれた子どもを育てる。

【教育目標】

*各学年の教育目標

《年少組・教育目標》

- *喜んで登園して、友達と遊べるようになる。
- *集団生活には、「きまり」があることを知る。
- *身の回りのことが、できるようになる。
- *身近な人と関わって、愛情や信頼感をもち。
- *道具の正しい使い方を覚える。

《年中組・教育目標》

- *周りの環境や友達と関わることを通して、好奇心や探求心を抱く。
- *基本的生活習慣が身について、「きまり」を守れるようになる。
- *身近な自然に触れて、動植物に興味や関心をもつ。
- *相手の話を注意して聞こうとしたり、経験したことを相手にわかるように話す。
- *美しいものを見て、美しいと感じる。（新入園児は、「年少組の教育目標」も含める。）

《年長組・教育目標》

- *年長の自覚をもつ。
- *物事に進んで取り組む意欲と自信をもつ。
- *文字や数量に対する感覚や、その記号的意味に気づく。
- *人の話を聞いて、理解して、（短くとも）まとまりのある話をする。
- *自分の考えや感じを言葉や体を使って表現する。
- *友達と役割を決めて、協力して遊ぶ。

1) 保育の計画性	園の教育理念 各学年の教育目標	・教育理念と各学年の教育目標を常に頭に入れ、達成する姿をイメージしながら毎日の保育に取り組んでいる。
	指導計画	・月に一度、保育カリキュラムを作成し、5領域に沿った目標を立てて、保育の中で取り組んでいる。 ・その時の子どもの様子や出来ることを見ながら計画案を見直している。 ・学年主任を中心に学年ごとに話し合いを重ねて、園児が主体的に参加できる活動を考え、週案を作成する。 ・担任は保育日誌に週案を記入し、毎日反省記録を残している。日誌を見返して、次の週案作成や保育内容の変更などに生かしている。 ・保育日誌は、週の初めに、副園長が目を通し、そのクラスの様子や担任が感じたこと、反省点を共有している。 ・各クラス目標を壁に提示し、常に意識できるようにする。 ・福津市独自の「アプローチカリキュラム」が作成されており、年長の2学期から取り組まれている。スムーズに就学につなげていけるように、1年生にも「スタートカリキュラム」というものがある。カリキュラムは年長の2学期からのものであるが、全学年、それを見据えて子どもたちの成長につなげていけるよう取り組んでいる。
	反省	・カリキュラムに沿って、スムーズに指導計画が進められた。福津市の合同研修会が夏に行なわれ、主任と年長の担任が、小学校1年生の担任の先生と交流する機会もあり、とてもためになった。
2) 保育の在り方 子どもへの対応	安全点検	・バスの置き去り事故を踏まえて、再度、安全管理マニュアルを職員で見直し、修正を加えて、そのやり方を徹底する。 「バス送迎における安全管理徹底のための研修」を受けた職員と運転手が、必要事項をすべての職員に伝達する。 ・学園の施設管理担当の渡邊さんに、遊具の安全チェックをしてもらい、危険な箇所は修繕してもらう。

	健康・衛生面	・保育中、体調が悪くなった園児がいたら、その時に応じた処置をし、保護者に連絡してお迎えに来てもらう。その間、事務室にて休ませる。 ・ケガが出た際は、すみやかに保護者に連絡をして医療機関に連れていく旨を伝え、園長が連れていく。出来るだけ保護者の方にも医療機関に付き添ってもらい、診療結果を共有する。 ・手指消毒、教室内の消毒を行ない、次亜塩素酸水噴霧器を使用している。(バスの座席の消毒も行なっている。) ・終礼で、ケガが出たことを伝えて、職員間で情報を共有する。また、今後同じことが起こらないよう、対策も踏まえて共有する。 ・ミスト装置を設置しているので、熱中症対策に生かしていく。
	反省	・昨年度ほど、感染症が流行らなかったが、それでもクラスによっては欠席者が多く、学級閉鎖になることがあった。 ・園内の見回りや危険箇所がないかの点検の回数を増やして、未然にケガ・事故防止に努めた。 ・総合遊具の階段で、踏み外してケガをした園児がいたため、階段部分にすべり止めを貼ってもらった。今後も、ケガをした箇所は、何らかの対策をとっていきたい。
3) 教師としての 資質と能力		・園児一人ひとりとじっくり関わり、信頼感を築く。 ・言葉遣いに注意して、丁寧な話し方を心掛ける。 ・身だしなみに十分注意して、第一印象を良いものにするよう心掛けている。 ・手遊び・紙芝居・大型絵本などを効果的に使い、子どもの興味を引きつける ・園児一人ひとりの個性や性格を把握して、日々のちょっとした様子の変化に すぐに気づけるようにする。何かその子に変化があれば、他の職員にも相談して解決策を考える。 ・挨拶・笑顔を習慣づける。 ・研修を受け、教師自身の意識を高める。
4) 保護者への対応	保護者との連携	・おたより帳にて、保護者との手紙のやり取りを行っており、その子の園での様子を伝えている。小さなことでも、保護者が知りたいであろう情報は共有するよう心掛け、信頼関係につなげている。また、保護者のフォローも忘れずに行なっている。延長保育の申し込みやバスの変更の連絡は、特に見落とさないよ

		う気をつけている。 ・その日の様子をお迎えの時に伝えたり、バス利用の園児の保護者には、電話をして伝えるようにして、保護者とのコミュニケーションを図っている。 ・病気で欠席した時には、必ず担任が電話をし、様子を聞くようにしている。また、連絡がないまま登園していないご家庭には、朝のうちに連絡を取るようになる ・月に一度おたより帳を預かり、子どもの様子をお手紙形式で記入したものを貼っている。子どもも読めるように、平仮名で書き、自己肯定感を高めている。研修で学んだほめ育を、ここで生かしている。
	苦情	・園バス等で苦情が入った際には、すぐに園長に報告し、対応・改善している。翌日からの変更を心掛け、職員間でも内容を共有し改善に努める。
	反省	・保護者との信頼関係は、よく築けていると思う。ただ言葉のニュアンスの違い等で、うまく伝わらなかったり誤解が生まれたりすることもあるので、まずは話を聞いて真摯に受け止める。
5) 研修と研究		・保育の質を高める為に園内で研究保育を行なっている。そのクラスにあった教材を担当が考え、その指導を見て反省会を行ない、意見を出し合っている。経験にかかわらず学ぶことも多く、勉強になっている。 ・年間を通して、定期的に外部の講師の研修を受けている。ディスカッションの時間もあり、意見交換を行ない、日々の保育に生かしている。 ・保護者に対しても、保護者講演会という形で外部講師によるオンライン研修を実施している。
	反省	・研修を受けさせてもらえることを当たり前だと思わず、感謝して取り組み、教師であり続ける以上、これからも向上心を培っていきたい。

今後取り組むべき課題・反省

1) 保育の計画性について	・子ども主体となる指導計画案を作成して実施していく ・行事や保育の内容を見直し、最善の案で進めていく
2) 保育のあり方 子どもへの対応について	・職員会議の回数を増やし、自分のクラスでない子の心配事なども共有し、職員間の連携をさらに密にしていきたい。 ・子ども一人ひとりの健康状態を把握して、少しの体調の変化にも気づけるようにする ・熱性けいれんが起こった場合の対応の仕方を再度職員間で確認する。座薬を保管している子に関しては、発熱のタイミングで保護者に確認し、座薬を使用する。

3) 教師としての資質と能力について	・園の教育理念をしっかりと理解し、日々向上心を持って保育に臨む。
4) 保護者への対応	・保護者が感じている心配事を共有し、その子の成長の手助けが出来るよう職員全員で配慮する。。 ・SNS を上手に利用して、子どもの園での様子を発信していく
5) 研修と研究	・個人で参加できる新たな研修に、積極的に参加して、キャリアアップをめざす。
6) 個人の自己評価を踏まえて	・年度末に自己評価を提出してもらい、園長・副園長で共有している。また、一年間の反省も提出してもらっているので、職員ひとりひとりが悩んだことや頑張ったことなどを、また次の年に生かしていけるよう、話を聞き、アドバイスや声掛けを行なっている。

財務管理について

監査法人の公認会計士により、適正に、運営されていると認められている。